

月報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	4月号 2011年5月1日
----	---------------------	------------------

手紙

K. T

4月の初旬ごろ、ポストに一通の封書が届きました。封筒を見ると明らかに子供からだとかかる色使いと、女の子の好みそうなラッコやイルカの絵が入ったかわいいらしい封筒でした。(はてな? いったい誰が送ってきたのだろう? うれしいな) と思いながら開けてみると、差出人は、4年前、自分が1年生を担当していた時の、隣のクラスにいた女の子でした。その子は1年生の9月にお父さんが海外赴任となり、それから現在まで家族みんなでタイへ移住しているという家庭の子でした。現在は現地でf年生に進級しています。その封書の中には、近況報告の文章の他に、封書には珍しい原稿用紙に書かれた文章が同封されていました。彼女は作文を送ってくれたのです。その作文を紹介します。

<人間の力>

自然の力には、だれも勝つことはできません。そういうことを知った「東北関東大しんさい」でした。私は、大地しんの翌朝に日本に到着しました。空港では、バスや電車が動いていなくて、家に帰れない人や、地しんのえいきょうで帰れない人などが、ねとまりしていました。私たちは、動いているだけの電車で無事に家に帰りました。家に帰ってテレビを見てみると、すべての番組がニュースで地しんのことを伝えていました。今回の地しんでは、地しんの他に大津波があり、とても大変なことになっていました。テレビを見るたびに口を開けて見ていました。ひ災地の人たちは、自然の力によってたくさんのものをうばわれました。命、家、思い出、たくさんの物を津波によって失いました。(中略) とても深いキズを心につけてしまっては、なかなか元にもどすことはできません。でも、少しでも明るく先気になってもらおうと、できるかぎりのことはしたいと思っています。自然の力はいつ強くなるのかはわかりません。でも、みんなで助け合って生きるという神様からの指令なのではないかと思いました。 以下省略

復興支援は大切です。でもそれとは別により深く考えるべき事柄があります。この出来事を通し神様は何を示してくださっているのかです。自然の猛威の前には人は無力であることはわかっています。それを目の当たりにした時、共存共生が必要になることもわかります。しかし、その自然をお創りになり治めておられる神様は、はるかに畏れられる方であられるというところまで見出すこと。どん底の苦難に人が陥った時こそ本当に大切なものを人は見出してほしい。という神様の願いがあるのではないかなと思っています。震災は災害に対する大きな教訓を残しますが、それ以上に人間が生きる目的を見出すための、神様からのメッセージだと思います。実際人は苦難の中にあつてこそ神様に会おうからです。神様の存在を確認し、隣人を自分のように愛みなさいという聖句を真剣に実践する時なのだと、この女の子は言っているように思います。自分もそう思います。あなたが今いるその場所において御言葉を実行みなさいということに尽きるのではないかなと思っています。だからこそ私たちには、神様に全てを委ねて、確信をもって案ずることなくこの世を生きていく信仰が求められるのではないのでしょうか。

時には、賛美の歌よりも

I . K

CCM(コンテンポラリー・クリスチャン・ミュージック)アーティストである、Amy Grant の曲
 “ Better than a Hallelujah ” の歌詞をご紹介します。訳は兄(五十嵐ジュン)です。信仰者の
 率直な気持ちを表した曲で、そのメロディの美しさも相まって印象的な曲となっています。

YouTube でもライブ映像等がUPされています。ご利用できる方は是非ご覧ください。

CDも確か持っていましたので、ご希望でしたらお貸しいたします。

“ Better than a Hallelujah ” - 時には、賛美の歌よりも -

時には、それは母親が涙ながらにつぶやく真夜中の子守唄。
 賛美の歌より神様が愛おしく耳を傾けてくださるもの
 時には、酔いつぶれた人の叫び。 命乞いする兵士の懇願。
 賛美の歌より神様が愛おしく耳を傾けてくださるもの

惨めな自分をさらけ出すとき
 神様はメロディーに耳を傾ける
 めちゃめちゃであればあるほど美しく
 心を砕いた誠実な叫びであればあるほど
 賛美の歌よりずっと

何とかしがみついて頑張っている女性。
 すべてを諦めてしまった死にかけた男性、
 賛美の歌より神様が愛おしく耳を傾けてくださるもの
 後悔に満ちた恥ずかしい涙、言葉にならない沈黙でさえ
 賛美の歌より神様が愛おしく耳を傾けてくださるもの

惨めな自分をさらけ出すとき
 神様はメロディーに耳を傾ける
 めちゃめちゃであればあるほど美しく
 心を砕いた誠実な叫びであればあるほど
 賛美の歌よりずっと

教会の鐘の音よりもずっと
 聖歌隊の荘厳な賛美の歌よりもずっと きっと

惨めな自分をさらけ出すとき
 神様はメロディーに耳を傾ける
 めちゃめちゃであればあるほど美しく
 心を砕いた誠実な叫びであればあるほど
 賛美の歌よりずっと

賛美の歌より美しく神様の元に届く・・・賛美の歌より美しく・・・神様の元に

手話賛美

N. K

私が手話に着かれるのは、聞こえない人と話ができるということとともに、私自身の思いや気持ちをより表現できるためです。

音声言語は声（音）で表し、聞く人がそれを捉え直して理解します。一方手話は意味を視覚的に表現します。賛美歌を歌う場合、意味がわからなくても声にすることはできますが、手話で賛美するには歌詞の意味を捉えることが必要です。古い日本語の表現が多い賛美歌ですが、手話に捉え直す過程を通して、より心を神様に捧げることができます。

目に見える手話に表すことで、歌詞の持つ意味が現れ出でくる場合もあります。教会学校で採り入れていただいている手話賛美『両手いっぱい愛』は典型的です。

ある日イエス様に聞いてみたんだ。

「どれくらい僕を愛してるの？ これくらいかな？ これくらいかな？」
イエス様は優しく微笑んでる。



ある日イエス様は答えてくれた、静かに両手を広げて。
その手のひらに 釘を打たれて 十字架にかかってくださった。
それは僕の罪のため。
ごめんね。ありがとう。イエス様。

聖歌701番「いかにけがれたる」も手話の長所が存分に発揮される歌です。たしか15年ほども前のことですが、ある教会で手話通訳の勉強会をする、というので訪ねたことがあります。そのとき取り上げられたのがこの賛美でした。

()内は手話表現

いかにけがれたる (とても) (けがれ)	ものの心を (人々) (心)	きよめたもう主は (きれい) (くださる) (主)	げにほむべきかな (本当) (ほめる) (する)
つみけがれは (つみ) (けがれ)	いやますとも (増える) (けれど)	主の恵みも (主) (恵み)	またいやますなり (もっと、越える) (です)



『罪けがれはいや増すとも主の恵みもまたいや増すなり』の部分で、手話では、左手で罪けがれが増えたその位置を表し、右手を使って「主の恵みをもっと高い位置にする」ことで罪けがれがどんなに大きくてもそれを清めることのできる主の恵みの高さ・すばらしさを視覚的に示すことができます。

さらに、『いかにけがれたるものの心』という箇所。私は上記のように、「とてもけがれている人々の心でもきれいにしてくださる主を本当にほめたたえます」と表現したのですが、このとき隣にいた兄弟が「とてもけがれている私の心を」と表現したのです。

私は自分の罪・汚れを見ずに、他人事のようにして「主の恵みはすばらしい」と思って（表現して）いたことに気づかされました。恥ずかしさを覚えるとともに、この賛美に告白された主の恵みの高さ・深さを感じて身震いするような思いがしました。

この時以来、聖歌701番は、自分の罪を覚えつつ主を見上げて悔い改め、心から主を誉め讃えることができる、私の愛唱歌です。